

日本学術会議 公開シンポジウム

「新型インフルエンザに関する緊急公開シンポジウム」

1. 主 催：日本学術会議 食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同新興・再興感染症分科会、同臨床医学委員会免疫・感染症分科会
2. 日 時：平成21年12月9日（水）、13:00～17:45
3. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
＜アクセス＞
東京地下鉄（東京メトロ）千代田線「乃木坂」駅5出口 徒歩約1分

4. 開催趣旨：

インフルエンザは、10～数10年に一回その姿を大きく変えたインフルエンザウイルスの登場によりパンデミックが引き起こされることがこれまでに経験されており、これに対する備えが地球規模での課題となってきました。インフルエンザパンデミック対策の基本は、出来るだけ新型インフルエンザウイルスの発祥を遅くし、発祥した場合には疾病の拡大を遅らせ、また拡大した場合には健康被害と社会の混乱を出来るだけ少なくするところにあります。またその対策は、医学・医療の分野だけではなく、公衆衛生的対応、そして社会における理解と取り組み、そしてこれらの組み合わせが必要です。さらにこれらの対策は、新型インフルエンザパンデミック対策のみのためにあるのではなく、その他の新たな感染症あるいは既存の感染症（新興再興感染症）のアウトブレイクへの対応に応用が可能であり、感染症対策全体の底上げとなるものです。

そのようにして準備が進められている中、本年4月メキシコに端を発したと考えられる「新型インフルエンザウイルス」が明らかとなり、わが国を含め世界中に拡大しております。幸いその症状の多くは季節性インフルエンザと変わらず、致死率などもスペイン型のような2%に達するようなものではないようですが、通常のインフルエンザの流行を超える多くの人が罹患する可能性があります。したがって感染しても多くの人は軽・中等症であることが考えられますが、低い割合であっても多人数がかかるので重症者もかなり増えることとなります。わが国の状況は、海外諸国に比し、患者発生数は少ないものの、その中に占める重症者数、死亡者数はこれまでのところ、非常に少ないのが特徴となっております。一方海外ではあまり報告のない小児での急性脳症発症例の増加もあり、感染の拡大とそれに伴い全体像の変化には今後の予断は許さないところでもあります。

1976年の米国におけるブタインフルエンザの発生を紐解くまでもなく、季節性インフルエンザの流行の大きい時でも、社会全体は騒然として、これに対してやむを得ぬこととは言いながら国としては対応策に大童となり、それまでの医学科学的検討を超えたところでの議論や決定が先行することがしばしば見られます。発生初期には様子の分からなかった新型インフルエンザも、未知の部分は多々あるものの、少しずつその姿が見えてきてもおります。本格的な冬季のインフルエンザシーズンを前に、日本学術会議として、これまでに得られた科学的医学的知見、それらに基づいて今後行うべきことにつ

いての考え方などをまとめ、広く会員および会員外の方々とそうした情報を共有しておくことは、これからのわが国におけるインフルエンザ対策そして感染症対策に有意義なことと考えられるため、今回の公開シンポジウム開催を計画いたしました。

5. 次 第 :

司会 岡部 信彦 (日本学術会議連携会員、国立感染症研究所感染症情報センターセンター長)
満屋 裕明 (日本学術会議第二部会員、熊本大学大学院医学薬学研究部教授)

○開会の挨拶

13:00~13:05 岡部 信彦 (日本学術会議連携会員、国立感染症研究所感染症情報センターセンター長)

13:05~13:10 金澤 一郎 (日本学術会議会長、宮内庁皇室医務主管)

○新型インフルエンザー現在の状況

13:10~13:50 岡部 信彦 (日本学術会議連携会員、国立感染症研究所感染症情報センターセンター長)

○新型インフルエンザの合併症ー急性脳症と重症肺炎

13:50~14:30 森島 恒雄 (日本学術会議連携会員、岡山大学大学院医歯薬学総合研究小児医科学教授)

○新型インフルエンザに対するワクチンと抗インフルエンザ薬

14:30~15:10 庵原 俊昭 (国立病院機構三重病院院長)

休憩

15:10~15:20

○今後のワクチン開発の必要性

15:20~16:00 山西 弘一 (日本学術会議連携会員、独立行政法人医薬基盤研究所理事長)

○人獣共通感染症としてのインフルエンザ

16:00~16:40 喜田 宏 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院獣医学研究科教授
／人獣共通感染症リサーチセンター長)

○今後の新興再興感染症への備えの必要性

16:40~17:20 倉田 毅 (日本学術会議連携会員、富山県衛生研究所所長)

○フロアからの発言・総合討論

17:20~17:40 岡部 信彦・満屋 裕明 (司会)

○閉会の挨拶

17:40~17:45 満屋 裕明 (日本学術会議第二部会員、熊本大学大学院医学薬学研究部教授)

お申し込み・お問い合わせ先

○参加費／無料

○参加申込／氏名・所属・E-mailアドレスを御記入のうえ、**12月7日（月）**迄に
メールで ayan@kumamoto-u.ac.jp
宛にお申し込み下さい。

お申し込み後、申込受付表を返信致しますので、シンポジウム当日、御持参下さい。

お問い合わせ先

宛先 860-8556 熊本市本荘1-1-1

熊本大学大学院医学薬学研究部 血液内科・感染免疫診療部 井上 睦美・満屋 裕明

電話：096-373-5156

FAX：096-363-5265

Email：ayan@kumamoto-u.ac.jp
